

武庫川流域委員会（仮称）まちづくり部会の調査分析視点案

050114 田村博美

1. 背景

地域を活かした川づくり、河川を活かしたまちづくり。

資料 参照

とくに阪神間を貫流する武庫川はまちづくりと川づくりが表裏一体の関係にある。

また、上流部の山林、田園ゾーン、中流部の自然溪流ゾーン、下流部の都市ゾーンと特色あるゾーンが連携され、総合治水の観点からかつ、まちづくり、川づくりの観点から相互に連携のとれた計画づくりが望まれる。

美しい風景、景観づくり。景観緑三法。

地域を貫流する武庫川は、様々な風景、景観を醸しだし、地域のシンボル空間として、地域住民の憩いの場やリフレッシュ、散策、野外活動、スポーツの場として貴重な空間である。

この重要な機能と資源を将来に保全し、さらに地域空間としての質を高めるためには、周辺地域の様々な地域資源、歴史文化資源との連携、風土景観の更なる醸成、河畔地区の河川・都市サイドによる協働的整備などが望まれる。

2. 既存調査分析の補完と調査範囲について

上記のような分析と計画を進めるためには、これまでの流域委員会で提出された関連資料だけでは不十分である。

参考、第 4 回流域委員会提示資料「武庫川の現状と課題」

調査分析範囲についても、既存資料は流域の範囲に限っており、下流域とくに宝塚市南部、西宮市、尼崎市に関する資料と分析評価がほとんど無い。

少なくとも武庫川河口まで含めること、武庫川との関連が強いと思われる両岸から 500M の範囲（標準的の小学校通学距離）については関連調査を行うべきであると考えます。

3. 調査項目について 別紙「まちづくりの視点から調査分析案 050114 参照」

流域諸都市の都市計画マスタープラン、総合計画、緑の基本計画、環境基本計画などを収集し、武庫川との関連、周辺地域整備との関連を分析評価する。（参照 A - 1）

また、武庫川らしい特色ある計画づくりのための基本理念の検討に活かす。（参照 A - 3）

武庫川河川空間における様々な利用、景観、風景等に関する現状把握と分析を行い（参照 B - 1 - 1 , B - 1 - 4）, B - 2 - 4、B - 2 - 6 の課題だと、B - 3 - 4 , B - 3 - 6 等評価と計画づくりに活かす。また今後の川づくりや緊急対応では、地域住民の協力と協働体制が必要不可欠であり、組織やグループに関する情報収集も行う。これらの結果を河川整備基本方針、河川整備計画としてまちづくりの視点からコメントする。必要に応じて具体的な整備構想として提案する。

周辺地域整備の観点から、とくに武庫川との関わり及び武庫川を線として捉えるのではなく、周辺地域と連携した帯、ゾーンとして捉えた現状把握と分析、評価を行う。（参照 C - 1 の一部、C - 2 , C - 3 につなげていく。）これらについても必要に応じ、河川整備基本方針等に記述することもあろう。これらの調査と分析を通じて“武庫川らしい”個性あふれる計画づくりを目指したい。

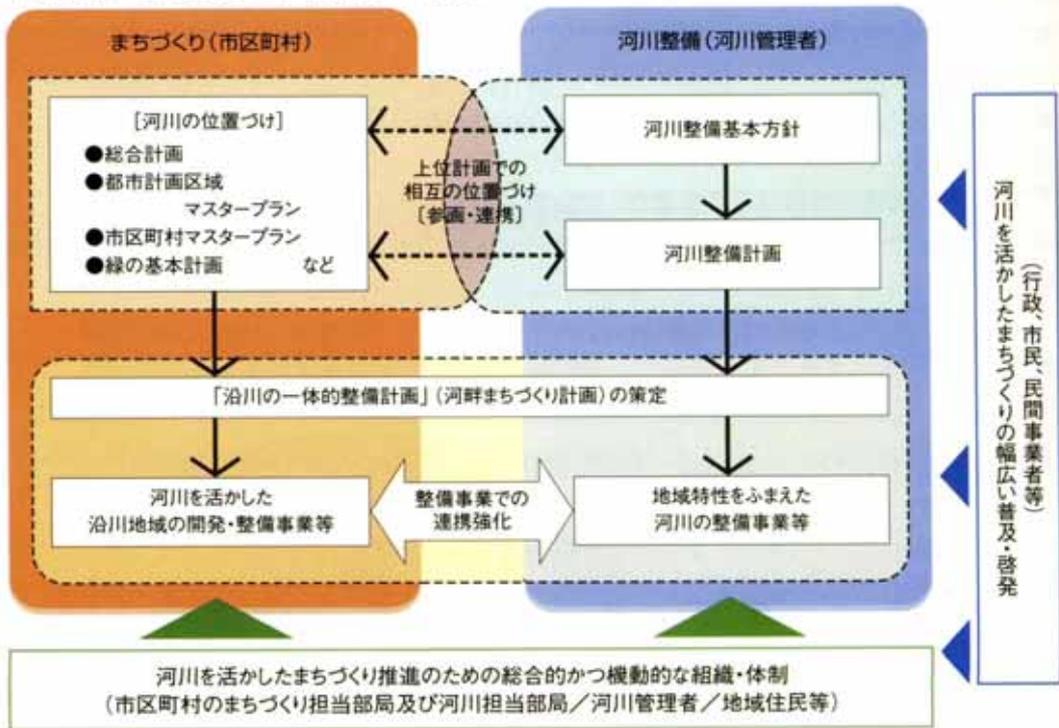
4. 具体の調査分析項目、調査範囲、調査分析精度

以上については、今後ワーキングメンバーと詳細検討の上具体化したい。

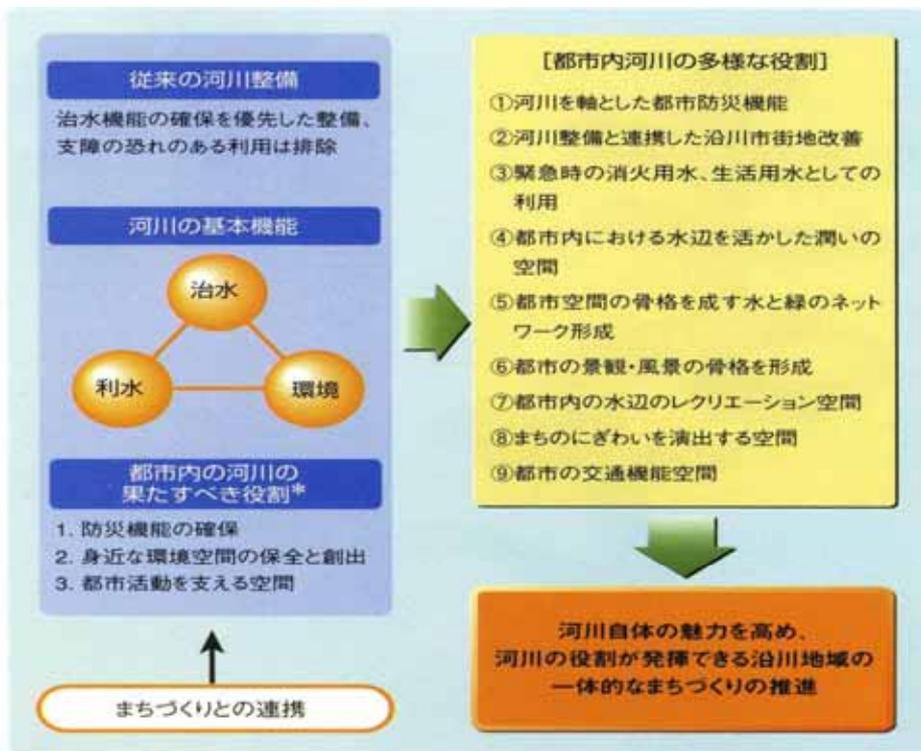
調査の仕方、事務局の支援体制等についても今後協議したい。

参考資料 出典：「河川を活かしたまちづくり事例集」 (財)リバーフロント整備センター編
 河川整備とまちづくりの協働体制の必要性と仕組み

● 河川を活かしたまちづくり推進への概念



出典：「河川を活かしたまちづくり事例集」



*河川審議会都市内河川小委員会中間報告の方針(平成10年9月)

出典：「河川を活かしたまちづくり事例集」

